

「一年間の活動に思う」

近藤節夫

幹事の大役を仰せつかってから丁度一年になる。幸いにして部員皆さんのバックアップでここ一年間の活動は他のクラブにまけないものだと思つてはいる。昨年から当部の会社におけるクラブ活動としての働きぶりは、はつきりいって十指に余るクラブの中でも名実ともに抜きん出た活躍をしたと自負できる。

部山行についていえば、従来の月例の山行は勿論、毎冬の合宿は今年の八ヶ岳でいよいよ軌道に乗つてきたといえるし、一昨年始めて夏山合宿を上高地で始めたが、昨夏はクラブキャンプの都合で秋へ順延されたとはいふものの、日光光徳をベースにスクジューを消化した。これもレールに乗せられる目安はついた。そして一様に、参加者の自覚と熱意によつて初期のと呼べる以上の成果をおさめることができた。この間、比較的目立たなかつた女性部員も積極的に動いてくれるようになつた。鶴田会計委員は女性らしいこまやかな神経でガッチャリ財布のヒモを握ってくれている。合宿にも日光で始めて女性の参加者をみた。これは画期的といつても良い。そして冬の富士（十二月）にも

登ろうという今様巴御前が出現した。その意氣大いに買うべし！

毎月二、三回行われるリーダー担当の部山行も軽いハイキング程度から、前記冬富士に至るレバートリーの広さを具現してみせてくれた。これら担当者の労を多とすべきでしょう。毎月の例会は毎度二〇名内外の参加者で、時折レポーターを無視する饒舌を除けば盛況といつても良いし、ひところの議事中心からサロン的ムードも出てきた。リーダー会にしても、リーダー各位の熱意で実の伴なつた会合を重ねてきている。

ところで三年前から小田急クラブとタイアップして沿線の山々にハイキングをやり、これは第一回の大山以後、高松山と続け、昨年は六月初旬に鳶尾山へ持つて行つた。これも一〇〇名近い参加者を得て好評裏に遂行できた。末梢的な批判はこの際さしおき、基本的なブランディングという見地からは私のもとには賛同の声が多い。更にタイアップ事業としてのキャンプ祭りは、小田急クラブ側をはじめ、前後六度に亘る準備会を併せて、この間現地朝霧にも行つてみたり、京浜急行のキ

ヤンプにも参加した。皆目判らなかつた要領も、ほんやりと判りかけてきたが、このキャンプ祭りの下準備でリーダー会諸君の熱意には胸打たれるものがあつた。結果はハイキングに優る予期以上の成果であつた。

大雑把に述べてみたが、卒直にいって昨年度は急に盛り込まれた計画の為に、あまり当部として長期的な祖野で部活動を進めていくことができなかつた。どうもインスタンスにコンペアシステムでことを運んだという印象が拭い切れない。こういうあり方は事務的に仕事を片付けたという記憶ばかり鮮明で、これといった充足感がない。ぶつつけ仕事という感じだつた。スケジュールに振り回されないと感じたことが何度かあつた。だが、これでは不味いと思う。

これからは、まず年間スケジュールの作成にあたつて、小田急クラブ側の意向を正した上で無理のない山行を立案する必要がある。昨年度の経験からして当部として大いに盛り立てていこうと考えるのはハイキングとキャンプであり、事実これ以上はとても無理だ。

次に部独自の山行としては慣例となつた冬・夏の合宿であり、春・秋の総会である。総会は別にして両合宿はこれの準備の為に準備山行も含めると、最低一ヶ月以上の期間を必要とする。従つてこれが遂行のため

にはリーダー諸君の多大の犠牲を強いることになるのだが、その他にも特色ある部山行を毎月各リーダーや委員が担当することになる。これらをハイキングとキャンプにうまくかみあわせる。リーダー諸君にとつては、ややオーバーウィークに見える。

そこで昨年来、スタッフのなかに△部山行、△ハイキング・キャンプ班を分化させ、リーダー会には前者に専任という形でやつてもらおうとの声もたびたびかれだし、ハイキング専門委員（仮称）の設置で近隣のハイキングコースの資料を収集してもらう等の声も一部にはあつた。理想をいえば、二分した上で活動してもらう方がスマートに動けるだろ。だが今のところ、そこまでやるには人材が不足だ。現在の部活動を沈滞させることなしに、このまま部独自の山行を統けには残念だが現在のスタッフをそのまま必要とするので、対外的な部活動には今のリーダー諸君と同じ熱意をもつた諸君を同じくらい必要とする。そういう点ではここ一、二年の内に急に一石二鳥策をとるのは少し無理なよう気がする。当面は、現在のままで臨機応変に分立策をとりたいと思う。これにはリーダー諸君の協力と、更に部員皆さんのが不可欠である。加えて今述べた様に新入部員の獲得に今後は積極的に

乗り出したいと考
える。そして最も
基本的なことだが
あくまで自主的な
行動力と心がまえ
を失なつてはなら
ない。

このたび岡田部
長にかわって、吉
原部長が就任され
た。新部長は当部
の活動に大変関心
をもたれ積極的に
山岳部長の役をお
引き受けいただき
た。我々も山に対
する熱情において
は人後に落ちるも
のではない。新部
長とともに限りな
い当部の発展を目
指して邁進してい
きたい。